

## ソーシャルメディアポリシー

Twitter や Facebook、LINE などのソーシャルメディアを利用する生徒が非常に増えています。ソーシャルメディアは、瞬時に様々な情報にアクセスでき、世界中の人々をつなげる大変便利で可能性をもったツールであることは間違いないでしょう。

でも、使い方を注意しないとトラブルに巻き込まれて被害者になったり、知らないうちに加害者になっていることも忘れてはいけません。

基本的にソーシャルメディアの利用は、生徒本人と家庭の責任にあると考えますが、その利用をめぐる、現在様々な問題が起こっていることも事実です。従って、本校としてもソーシャルメディアをめぐる問題に対する姿勢を明らかにすることが必要だと考えました。ここに、その基本的な考え方を示しておきたいと思います。

### 1. 世界につながるメディア

一度ネットに発信した情報は、世界中の人が見ることができますし、完全には削除できません。公開範囲を限定していたとしても、何気なく撮った他人の顔写真やプリクラなどを、本人の許可なく勝手に掲載すると、コピーされ他人の手に渡る危険性があります。たとえ発信する側に悪意がなくても、他人から見れば不快に思うことがあります。こうした発言や行動を起こす際に、他の多くの人が見る可能性があることを意識し、書き込んだ内容がどういう被害をもたらすか、一度立ち止まって考える習慣をつくりましょう。

### 2. 個人情報の危険性

個人が特定できる名前、学校名（最寄り駅などの特定に至る内容も含みます）、住所、クラス、年齢、性別、あだ名などの記載はしないようにしてください。自分の顔はもちろん、無断で撮影した他人の写真などでも個人が特定されてしまいます。閲覧制限のあるブログであっても、こうした情報を公開した場合、ネット上に永久に残ります。安易な気持ちでやってしまった書き込みや写真の掲載などが、将来の進路や就職などの不利益になる恐れがあり、その責任をいつまでも背負い続けなければならなくなります。もちろん、現実世界でやって

はいけない行為を、ソーシャルメディアの空間であっても行えば犯罪になります。

### 3. 学校の名誉や他人を傷つける行為

学校に関わるサイトで、学校への誹謗や中傷、名誉を傷つけるような内容を掲載する行為は、許しません。

また、クラスの友人や他人を傷つける悪口、秘密、性的な内容は、つぶやきであっても記載してはいけません。これらの行為が調査の上、確認できた時は、学校として厳しく指導します。

### 4. 利用しない、見ない、気にしない勇気

利用したことがないからわからないとか、利用する気がない、あるいは家庭の事情で利用できない生徒もいることでしょう。

これらは恥ずかしいことではありません。保護者ともよく話し合い、それぞれの家庭の独自のルールを決めることは大切なことです。友達がみんな利用しているから、利用しなければならないということではありません。

また、ソーシャルメディアは、文字だけのやり取りなので、その真意がわからず傷ついたり、悩んだりすることもあるかもしれません。時には、見ない、気にしないという「スルー（無視）」する勇気も必要です。

### 5. 保護者の責任

本校では、校内での携帯電話・スマートフォンの使用は、一切禁止しています。ただし、保護者からの申請があった場合には、例外的に本校内への持ち込みを認め、登下校時の緊急連絡を認めています。申請があった場合でも、特別な事情がない限りは、登下校中のトラブル防止のために携帯を出してはいけないことになっています。

学校外で携帯・スマートフォンを持たせるか否か、また、持たせる場合に「使うルール」を守らせることについては、基本的にその経費を負担している保護者に責任があることを、ご理解いただくようお願いします。

## 6. 困ったときの対応

ソーシャルメディアへの書き込み、閲覧、イベント等の会への参加などで、どうしたらよいか迷ったら、一人で悩まず保護者や先生など、身近な大人に相談しましょう。

また、ソーシャルメディアの利用で、悩んだり、傷ついたりしている友人を見かけたり、耳にしたりしたときも、すぐに相談してください。大きな問題になることをくい止めることに、つながります。

## 7. 明確に意思を伝える力を

ソーシャルメディアを適切に扱える力をどう養っていくのかということは、これからの教育機関として大変重要だと思います。しかし、同時に私たちが忘れてはならないのが、電波を通さずに、直接相手と生身の会話をするコミュニケーションの力をどのように獲得していけるかということだと思のです。伝えたい大切な気持ちや言葉は、相手と直接向き合って話をするのが大切なのではないのでしょうか。直接、言葉で伝えられないような内容を、ネット上に無理して書き込もうとすると、言葉だけが一人歩きし、相手に誤解を生じさせることにもつながります。

本校では、教育目標の1つに「明確に意志を伝える能力」を掲げています。海城の門をくぐった生徒たちには、「face to face」のコミュニケーションの力を、本校で設定されている様々な取り組みにチャレンジする中で、少しずつでも鍛えてほしいと教職員一同、心から願っています。